

ほほえみ

No. 90
AUTUMN/2026

<https://www.ranzan-hp.or.jp/>

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1312-1 TEL 0493(81)7700 FAX 0493(81)6776

診療報酬改定と武蔵嵐山病院の医療事務の対応

～正確なレセプト業務から、病院の医療を支える～

武蔵嵐山病院 医事課課長 田中 裕樹

令和8年度6月に診療報酬改定が行われました。診療報酬とは、診察、検査、入院、薬、リハビリテーションなど、医療機関が提供する医療サービスについて国が定める公的な料金です。今回の改定では、物価や賃金の上昇、人材確保の必要性、医療提供体制の維持など、現在の医療を取り巻くさまざまな課題が考慮されています。また高額療養費制度も8月より変更になり患者さんが窓口で支払う医療費の自己負担額が新たに改定にされました。

当院の医療事務では、診療報酬改定の内容を確認し、院内の各部署と情報を共有しながら、日々のレセプト業務に取り組んでいます。ここで診療報酬改定により新設された項目の中で取得した加算を一部紹介します。

- ・口腔管理連携加算（入院中の患者さんに連携している外部の歯科医師による診察）
- ・心不全再入院予防継続管理料（心不全の再入院の予防を目的とした計画的な治療）
- ・身体的拘束最小化推進体制加算（身体的拘束の最小化の取り組みと基準割合）
- ・腎代替療法診療体制充実加算（腎代替療養等の充実した体制）

これらは、医療事務だけで完結するものではありません。医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、管理栄養士など、さまざまな職種がそれぞれの専門性を発揮し、国が求めている医療提供体制にいち早く取り組み診療報酬改定の対応を行いました。

また当院の医療事務では、レセプトの正確性を高めるだけでなく、診療報酬に関する情報を院内で共有し、算定状況の確認や業務改善にも取り組んでいます。

また将来を見据えて医療DX化も重要になっています。今後、オンライン診療、24時間予約システムの活用などを進めることで、より安全で効率的な医療提供につなげていきます。これらの取り組みは、患者さんへのサービス向上や待ち時間の短縮、医療安全の向上にも役立っています。そして接遇を意識し、地域の皆さまに安心してご来院いただけますよう『病院の顔』として窓口対応にも力を入れて地域医療に貢献してまいります。

リハビリテーション部の紹介

機能訓練室



私たちリハビリテーション部門は病気やけがなどによって生活に変化が生じた方が、1日も早くその人らしい生活が取り戻せるよう、一人ひとりに寄り添ったリハビリテーションを行っています。

当院には一般・回復期・療養の各病棟があり、患者さんの状態や生活背景に応じたリハビリテーションを提供しています。立つ、歩く、着替える、食べるといった身体機能や日常生活動作への支援はもちろん、退院後の生活を見据え住環境やご家族の状況なども考慮しながら、安心して生活を再開できるよう支援しています。

また在宅部門では通所リハビリ、訪問リハビリ、外来リハビリも行っており、退院後の生活に戻れたあともフォローアップできる体制をとっています。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など約60名のスタッフがそれぞれ専門性を生かしながら多職種連携して患者さんを支えています。リハビリテーションでは「できるようになること」だけを目標にするのではなく、「できるようになったことを、実際の生活の中でどう生かすか」を大切に取り組んでいます。

また、大きな特徴のひとつとしてドライブシミュレーター（Hondaセーフティナビ）を用いた運転再開支援があります。注意障害や半側空間無視など高次脳機能障害がある患者さんに対し、運転再開に向け具体的にどこが問題なのか確認し練習していきます。最終的には免許センターで合否が出ますが、再開可能かの見通しを含めリハビリテーション科の医師の指示のもと実施しており、好評をいただいております。

これからも地域の皆さまが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、医療と生活をつなぐリハビリテーションを通して地域に貢献してまいります。



ドライブシミュレーター

排泄ケアチーム立ち上げ

排泄ケアチーム 瀬尾 正美

看護部では2017年からCST委員会（コンチネンス・サポート・チーム）を立ち上げ、排泄の課題を持つ患者さんが安心して入院生活が送れるように排泄ケアに関する様々な活動を行ってきました。この度、多職種で参画する『排泄ケアチーム』を7月に発足したので活動内容をご紹介します。

Q. どんなメンバーでどんな活動をするのか？

チームメンバーは医師・専任の看護師・理学療法士または作業療法士・リンク看護師で構成されています。

活動内容は、週に一度病棟ラウンドを行い、治療目的以外での膀胱留置カテーテル挿入中の患者さんに対し、早期抜去や排尿自立を目指す患者さんの状態を多角的に評価しアプローチしていきます。また、ケア向上に向けて定期的にスタッフ全体へ勉強会を行い、院内全体のケア品質の向上に努めていきます。

排泄のトラブルは、病気や加齢だけでなく、薬の影響や筋力低下、認知機能など様々な要因が絡み合っています。看護部だけのケアにとどまらず、各分野の専門性を持った職種が集まる必要があります。

近年、診療報酬における『排尿自立支援加算』があります。排尿自立支援加算は膀胱留置カテーテルを1日でも早く抜去して尿路感染を防止するとともに排尿自立の方向に導くことを目的に2016年に新設されました。多職種が連携して排尿自立を支援することの重要性と効果が正しく評価されるようになりました。

患者・家族が抵抗を感じる介護の一番は『排泄の介助』です。家族に、排泄の介助は抵抗感や羞恥心があります。だからこそ、双方が気持ちよく生活が出来るように私たちの関わりが重要になってきます。

患者さん一人一人が、自分らしく穏やかな入院生活を送り、住み慣れた地域へ元気に戻れるようチーム一丸となってサポートしていきます。排泄に関するお困りごとやご質問がありましたら、お気軽にスタッフまでお声がけください。また、排泄に関する介護教室も開催していますので、みなさんの参加を心よりお待ちしております。



地域連携交流会

患者支援センター 師長 山名 悦子

2026年7月23日に日頃連携をとらせていただいている比企地域のケアマネージャーさんをお迎えして地域連携交流会を開催し、当院での退院支援の取り組みや患者様を地域で支えるための連携について情報交換を行いました。昨年12月に第1回目を開催し、今回で2回目の開催です。

ケアマネージャー35名の方々に参加いただき、「当院の紹介、退院支援の取り組みについて」お話ししました。その後、病院内をご案内し、病棟の様子やリハビリ室でのドライブシュミレーション、心臓リハビリテーションなどを見学していただきました。「病棟のそれぞれの特性が理解できた。」「退院支援の取り組みの詳細を確認でき良かった。」「在宅生活を見据えて対応してくれているのが理解できた。」「実際に見学できてリハビリが充実していることがわかった。」などの感想があり嬉しく感じました。

院内見学の後は退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、病棟看護師も参加して、情報交換、グループワークで盛り上がりました。ケアマネージャーさんの生の声を聴き、入院直後の連絡の取り方などを改善する取り組みにつなげることができました。当院では、昨年からは回復期病棟に、今年からは療養病棟に病棟所属の退院支援看護師を配置して退院支援の強化を図っています。普段病院から地域に出ることの少ない看護師が、ケアマネージャーさんと顔の見える関係を作ることができて、大変貴重な時間となりました。今後もこういった機会を大切にして、患者様やご家族が安心して退院できるよう取り組んでいきたいと思います。





夏祭り



リハビリテーション部 言語聴覚士 青木 未来斗

暑さも吹き飛ばすような賑わいの中、回復期病棟では夏祭りレクリエーションが行われました。職員だけでなく法被姿で参加される患者さんの姿も見られ、会場には屋台風の飾りつけやすだれが用意され、まるで本物の祭り会場のような雰囲気でした。この日参加されたのは36名の患者さんです。

最初は盆踊り。炭坑節の音楽が流れ始めると、座ったままリズムを刻む方、見よう見まねで手を動かす方など、思い思いのスタイルで踊りを楽しまれていました。隣同士で話が弾み、普段は口数の少ない方までもが自然と会話に加わる、そんな様子でした。

中には振りつけを覚えている方が、周囲にそっと教える場面もあり、皆さん笑いながら楽しそうに体を動かしていました。

続いて射的と輪投げです。患者さんは2グループに分かれ、それぞれのコーナーを順番に楽しんでいただきました。射的コーナーでは、狙いを定める真剣な眼差しは普段の表情とは一味違い、射的銃をしっかりと構え、命中すると同時にあちこちから歓声と拍手が起こりました。一方の輪投げコーナーでは、車椅子に座ったまま輪の行方をじっと見つめ、狙いを定めて投げる方の真剣な表情が印象的でした。輪がかかると、周囲からは大きな拍手が送られ、成功した方には「すごいね」「上手だね」と温かい声かけられていました。

締めくくりはかき氷です。ブルーハワイやいちごのシロップをかけたかき氷を前に、ひんやりとした甘さに「美味しい」「久しぶりに甘いもの食べた」と声がこぼれ、笑顔とともに会は終了しました。祭りの余韻を楽しみながら、すべてのプログラムを終えた患者さんたちの表情には、満ち足りた笑顔が広がっていました。来年もまた、こうした季節の行事を通じて、患者さんの笑顔と思い出づくりのお手伝いをしていきたいと思います。



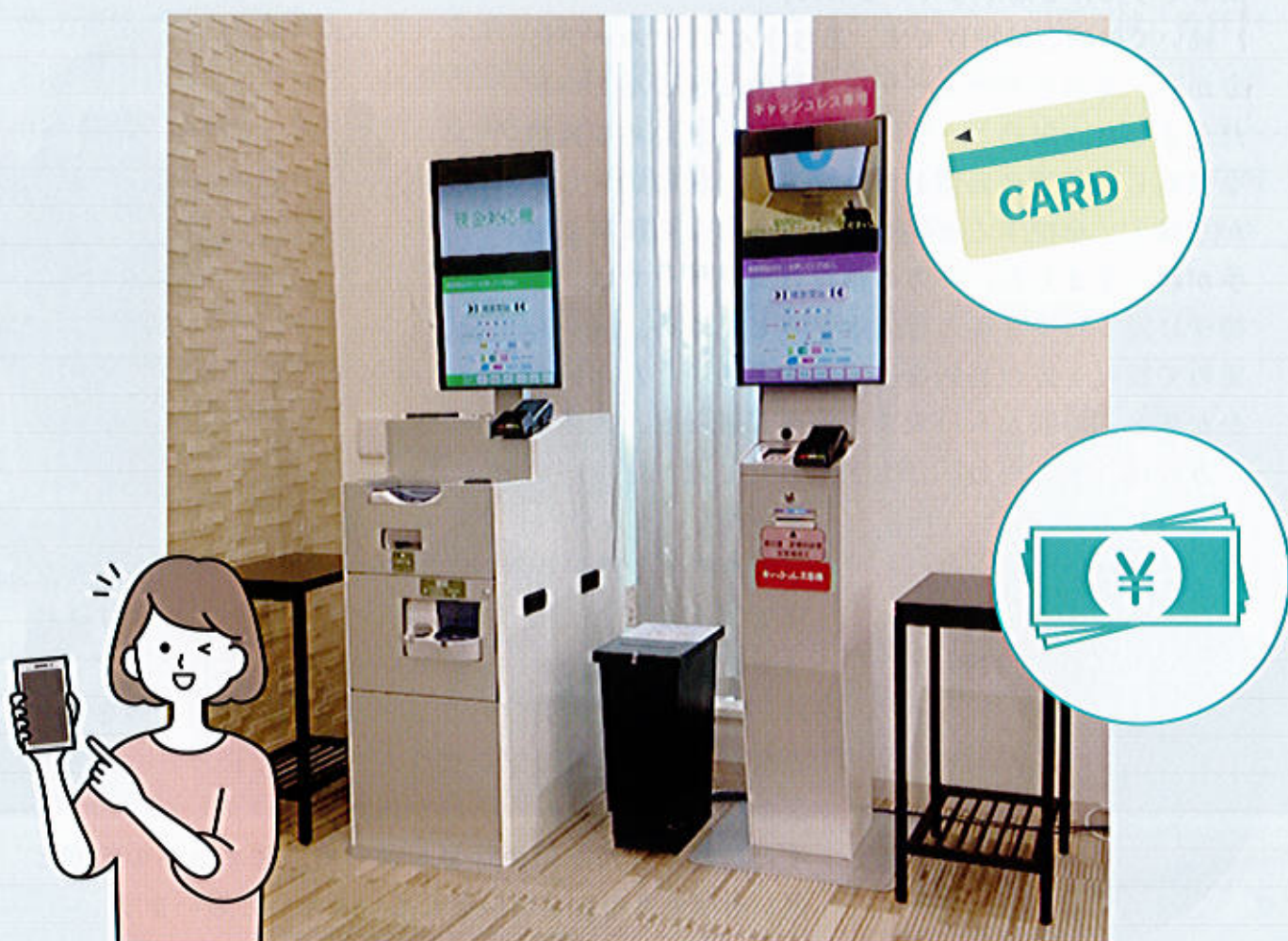
自動精算機導入しました



当院では、患者さんの利便性向上と、会計待ち時間の短縮・混雑緩和のため、2026年4月末より自動精算機を導入いたしました。

診察終了後、請求書に印字されているバーコードを機械にかざすだけで、画面の案内に沿って簡単にお支払いを完了していただけます。現金だけではなく、クレジットカードや電子マネーなどのキャッシュレス決済にも対応しています。初めてご利用になる方や、操作にご不安がある場合は、近くのスタッフがご案内いたしますので、どうぞ遠慮なくお声がけください。

今後とも、患者様が安心して快適に受診できる病院づくりに努めてまいります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



診療放射線技師撮影にかける思い



診療放射線技師の仕事は、単に画像を撮影することではありません。その一枚一枚が、医師の診断や治療方針を左右する大切な情報となるため、「**正確な画像を提供すること**」を常に意識しています。そのためには、日々進歩する医療機器や撮影方法について学び、技術の向上に努める必要があります。

実際の撮影では、患者さん一人ひとりの体格や症状、痛みの程度は異なるため、最適な体位や条件を工夫し、必要な情報をできる限り負担の少ない方法で得られるようにしています。例えば、痛みで通常の姿勢を取ることが難しい場合には、クッションを使ったり、体位の工夫により負担を軽減して撮影します。また、検査は不安や緊張を伴う時間でもありますので、検査内容の説明や、一つひとつ声をかけながら進め「**安心して受けられる検査**」を心がけています。緊張が和らぐことで、患者さんに安心して検査を受けていただき、結果としてより質の高い画像につながることも少なくありません。

診療放射線技師として、私達は画像一枚一枚の役割を理解し、日々技術の向上に努めるとともに、患者さん一人ひとりに寄り添った撮影を実践して「**正確な画像**」と「**安心できる検査**」の両方を提供し医療を支えていきたいと思っています。

外来担当医師のご案内

2026年10月1日～

初診外来

初診症状、はじめての方、予約のない方の受診科になります。予約外の患者さんの受診科になります。

※女性医師

		月	火	水	木	金	土
総合内科	午前	高 野	大 山	杉 山	松 本	田 中	高 野
	午後	加 藤	野 本	大 貫	松 本	杉 山	長谷川

以下の診療科は原則予約制となります。症状等によっては初診時より予約することもできますのでご相談下さい。また二次検診の場合は項目によっては専門の診療科へ案内いたします。

専門外来

		月	火	水	木	金	土
内 科	午前	菅野龍彦	長谷川	杉 山	松 本	菅野龍彦	高野・菅野元
	午後	杉 山		大 貫	松 本	杉 山	長谷川
循環器内科	午前	高 野	野 本	菅野龍	※高 野 (10時半まで)		高 野
	午後		野 本			高 野	
消化器内科	午前		大山			大 山	
	午後		佐 藤		戸 嶋	菅 原	戸 嶋
呼吸器内科	午前	中 込		朱	河 村		
	午後			朱			河 村
糖尿病内科	午前	勝 盛	住 友	勝 盛	住 友	埼玉医大	
	午後	勝 盛	住 友	勝 盛	住 友	交代制	
腎臓内科	午前		田 中		田 中	田 中	
	午後	末 吉	田 中	末 吉			
神経内科	午前		見 上				加 藤○
	午後	加 藤○			加 藤○		
※認知症・物忘れの診断、治療も行っております。○はリハビリテーション科併行							
脳神経外科 リハビリテーション科	午前					桶土井	
	午後	橋 出					
整形外科	午前			男澤(第1・3)	皆 川	飯 田	皆 川
	午後		山崎(第2・4)		皆 川	飯 田 (15時半～)	皆 川
泌尿器科	午前				伊藤(第1・3)		
	午後		大 貫	大 貫	伊藤(第1・3)		黒 田
リウマチ 膠原病科	午前					三 村	
	午後						
外 科	午前						
	午後			小山(第1・3)			

ご予約はお電話でもお受けいたします。(8:30～17:30) 休診等ございますので、お電話にてお問い合わせください。

	午 前	午 後
診療時間	9:00～12:00	13:30～17:00
受付時間	8:00～12:00	12:30～17:00

※初診は16:00まで

医療法人蒼龍会 武蔵嵐山病院
〒355-0077 埼玉県東松山上唐子1312-1
TEL 0493-81-7700

